笠置町簡易水道事業経営計画等検討委員会（第2回）概要

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 令和３年１月２０日（水）午前10時00分から12時20分 |
| 開催場所 | 笠置町役場２階第１会議室 |
| 出席委員（敬称略） | 植田克巳 、北川一美 、谷本一榮 、西窪明子 、二滝久功 、山口茂  |
| 欠席委員（敬称略） | 坂本かおり |
| 事務局 | 石川建設産業課長、井上主任 |
| 会議次第 | 1. 開会
2. 議題

今後のスケジュールについて水道料金の現状について1. 閉会
 |

|  |  |
| --- | --- |
| 発言者 | 会　議　の　概　要 |
| 建産課長委員長事務局委員長事務局委員長事務局委員事務局委員事務局委員長事務局委員長委員委員事務局委員長事務局 | 第２回笠置町簡易水道事業経営計画等検討委員会の開催を宣言し、坂本かおり委員の欠席報告を受けていることを報告。議事進行について委員長に委ねる。前回の委員会で行政よりこの委員会について一定説明を受けたのですが、この委員会がどういったものなのかと思い持ち帰り振り返ってみたのですが、経営戦略をこの委員会でたてるということではないように思っております。行政からの資料や私自身なりに調べたなかで、今回、水道や下水道、病院等のいわゆる企業会計について、中長期的に収支均衡を図るように戦略をもって考えなさいということが総務省のガイドラインに沿って、当局が１０年以上の中長期的な計画を策定したうえで、住民の皆さまや議会に策定したものを説明しなさいというのがガイドラインにでています。で、この委員会というものは、こういったことをこの委員会で考えるのではなくて、計画策定において色々な意見をだしてもらったうえで、行政のほうでガイドラインに沿って策定したいということが役場の趣旨のようです。前回の委員会では少し会計の問題や施設の老朽化等の難しい問題が出ましたが、そういったことを役場側がどういう方向性をもっているのかを聞いたうえで、委員の皆様方にそれが戦略のなかにどう反映していくか意見を求めたいというのがこの委員会の趣旨だと思いますので、担当課より聞きたいことがでてくると思いますので、それについて意見を述べていただいたいと思います。委員長よりありましたように、策定にあたり総務省のガイドラインがございます。その中でこのような検討委員会をつくりなさいというようなことは書かれていません。事務局として経営戦略をつくるにあたっては、住民さんの意見を聞きたいということが第一にあったこと、また他市町村の策定事例をみてみますと、パブリックコメントにおいて意見を求める事例が多くありました。笠置町において、高齢者が多数をしめるなかで、ＰＣ操作等をしなければならないパブリックコメントが相応しいのかどうかを考えた中で、委員会をたちあげ直接意見をききたいという思いから委員会を設置した経過になります。ガイドラインには、議会に上程しなければならないとかいうこともうたわれていませんので、実際に水道を使用されている住民の皆さまの忌憚のない色々なご意見を頂戴したいと思います。今後のスケジュールとしましては、この３月に一旦行政として経営計画を策定したいので、それに対してのご意見を伺えたらと思っております。３月までに策定しなくてはいけないということですか。もっと早くから取り組む必要があったのではないですか。町の総合計画が策定を予定されておりますので、それに合わせられたらと思っております。総合計画の策定時期があとであれば、自然に総合計画にこの経営計画が反映されるものだと思いますので、まずはこの経営計画を早く策定することが大事であると思われます。今日のテーマとしましては、水道料金の現状についてをテーマとさせていただきます。　　《資料に沿って説明》令和元年度の決算状況で、月平均２３４万円料金収入があり、かける１２が年間収入になります。参考に赤字が年間２,４５３万円あり、一般会計より繰入れをさせていただいています。独立採算が原則でありますが、繰入を行っている現状となっております。これを１０年後に繰入を１,０００万円まで減らすことで仮設定し、仮試算をしてみましたが、１０年で現行の水道料金が倍以上になる見込みとなってしまいますので、好ましいもではないと思いますので、あくまでも目標として、１０年後には繰入額を１,５００万円までに抑えられるような料金の見直しをしていく必要があると考えています。水道料金の説明があったのですが、冒頭委員長からもあったかと思うのですが、まずは計画を策定されてから議論をしないと難しいのではないでしょうか。料金を先に決めてしまうのではなくて、今後の施設の維持修繕、改良や計画等においてこれくらいの費用がかかってくるので、これくらいの水道料金の見直しが必要ですよということが大事ではないでしょうか。まずは、独立採算が原則であるにもかかわらず、現状多額の繰入をしている状況がありますので、なかなか施設の大幅な修繕や改良等について、赤字である現状では考えられていません。日々の見廻りにおいて注視し特に緊急性がない限りは小修繕で対応していくしかないと考えていますので、まずは、そこを解消したいという思いがあります。説明に、いこいの館の使用水量が多くあったとありましたが、他に、お試し住宅やサテライトオフィス等利用されていないので、そこの利活用を含め町づくりと絡めていく必要もあるのかなと思います。また、前回でも話が出ましたけど、笠置の水は美味しいという声もあがっていたと思います。その水を町おこしとして絡めて何かできたらなとも思います。単純な意見かもわからないですが、人口が増えない等課題が多い中、いま水道料金をあげてもまた、同じ状況が続くと考えられますので、使用水量の多かったいこいの館の今後の在り方も含めて町全体で考えていかなければならないと感じました。あくまでも、水道料金の改定ありきの話しではなくて、いま年間約２,４００万円程の赤字がある中で、前々から笠置の水は美味しいという声もある中で、この小さな町で水道施設が４施設ある状況です。水道料金をあげることをせず、何できるのかのということを考えると、例えば、施設の統合なり、委員さんより意見もありましたように企業の誘致なりで料金を増やせないかというような色々な意見を聞かせていただけたらとなと思います。ただ単に施設の統合というわけではなく、各施設の建設経過などがあり統合できていない状況もありますが、今後の老朽化を考え、皆さまの子や孫の世代を考えますと、現行の水道料金では運営できないのが見えているのも現状ですので、府内の水道料金も参考にみていただき、笠置町の水道料金の現状についても知ってもらえたら思います。色々な意見を聞きたいということですが、まずは経営計画を策定されてからではないのか。前回提示しているのもが、経営計画の素案であり、それについて意見があれば出していただきたいと考えています。今後の施設の老朽化等を迎えるにあたって、その時にどういった内容で安定した水を供給することを描くのが、経営戦略だと思いますので、料金改定が３年毎がいいのか、５年毎がいいのかとあるが、住民にとっては誰もが水道料金は上げてほしくないと思います。そうした中で、最低料金を改定しなければならない時がでてくると思うので、どういうふうに維持していくのかを、料金改定なのか収益を増やせるのかなど丁寧な説明が必要だと感じます。高齢化したら水道使用水量は減少に向かうばかりで、なかなか厳しい状況がみえますね。水道料金がなるべき高くならないようにというのが願いですが、現状赤字が多額にあるというのも事実のようですので、何かできないかなというのを考えてみますと、電気代の徴収については、２ケ月に一回となっているように、水道メーター検針も2か月に一回の隔月検針を実施されてはどうでしょうか。些細なことですがそういったこともできるのではと思います。隔月検針も経費削減のひとつであり検討もさせていただいているのですが、漏水をいち早く確認でき水を大量の放水させたくないというのもあり、現状毎月検針となっています。再度経費削減の検討材料とさせていただきます。なかなか委員で水道料金を上げる上げないということは議論しにくい。資料だされて説明されても、何を求めているのかがわかりにくい。まずは、町でこういった形で運営していきたいという経営戦略をたててもらわないと意見がだしにくく、同じ話しが繰りかえされることになってしまいます。次回は素案ではなく、方向性を示したものを提示させていただき、皆さまの意見をお伺いさせていただきたいと思います。以　上　　 |